



## 2024年度千葉県生協連政策検討会を開催しました！

千葉県生協連では、会員生協が次年度の活動方針を考えるうえで必要と思われるテーマを取り上げ、政策検討会として開催しています。今年度は10月17日(木)に開催し、午前は新たな社会課題として「アテンション・エコノミー」の問題を、午後は会員生協の活動から好事例を取り上げ、交流しました。12会員生協 66人が参加しました。(文責：事務局)



### 開会挨拶(抜粋) 千葉県生協連 首藤英里子会長理事

この度、日本被団協がノーベル平和賞を受賞され、心からお祝いを申し上げます。千葉県生協連も千葉県原爆被爆者友愛会の皆さんの活動を支援し、共に取り組んで参りました。今回のノーベル平和賞受賞は大変喜ばしい事であるとともに、小さくても地道に活動を積み重ねてゆくことの重要性や期待を、改めて強く感じるところです。

### 《午前の部》 「デジタル空間と私たちの暮らし～情報的健康とは～」

#### 講師 慶應義塾大学大学院法務研究科教授 山本龍彦先生

暮らしの中でインターネットが不可欠な状況になっています。情報社会において、「アテンション・エコノミー」(関心を競う経済)から個人の尊厳をどのように守ればよいか、を考えました。



#### 1. アテンション・エコノミーとは

今、インターネットが普及し、情報過多な世界になっています。供給される圧倒的な情報量に対して、我々が払える「アテンション(関心・注意)」や時間は貴重で、当然、経済的な価値を持つようになります。こういうビジネスモデルのことは「アテンション・エコノミー」と呼んでいます。お金と同じぐらい貴重な時間や有限の関心が、閲覧数や「いいね」という形で指標化され広告主に売られることで、Google、Apple、Amazon、メタといったプラットフォームが収益を得ています。

#### 2. アテンション・エコノミーの課題

今、プラットフォームから絶えず通知が届く中で、スマートフォンを置くことができない以上、その魅力的・刺激的なものに常時さらされている状況です。これが果たして「人間のディグニティ(尊厳)」というものを実現しているのかどうか、が改めて問われています。国連では「個人レベルでも コミュニティレベルでも、我々は注意が高じたときしか集中力が持たなくなってきた」と報告されており、これは憲法学的に見ても非常に重要で重大な、由々しき事態なのかもしれません。また、TikTok といった刺激的な情報を「快樂」と特定すると、それが問題だということ自体が「問題ない」というような考えになります。「人間の尊厳とは何だろう」ということを、やっぱり改めて議論しないと、若い人た



ちはおそらく「それは何が悪いんですか」ということになる。特に世代間とかで、こういう会話をすることが非常に重要だろうと思っています。

### 3. 情知的健康のすすめ

今「情知的健康」というコンセプトを論議しています。現代人の多くは「様々なものをバランスよく食べるということが良いことだ」と考えていると思います。現代のアテンションの状況では、陰謀論であれば陰謀論ばかり、リベラルであればリベラルな思考ばかりを食べる、といった「情報の偏食」が進んでいます。食育でいう「食物を食べる」摂取行動と「情動で摂取する」という行動を見直していくということは、何かやはり情報の場合と共通しているようにも感じています。

### 4. 終わりに

プラットフォームの権力、つまりここまで情報空間を支配し我々の考え方を操作し得る存在になってるわけですから、そこをどういう風に監視し権力を統制していくのかということが新しいメディアとして問われるのではないかと、思います。そういう意味で「公共を作ること」、実はここを生協でもと期待しています。

## 《午後の部》 「持続可能な社会の実現に向けた、生協の多様な活動を考える ～ 事業や活動のすそ野を広げるために ～」

午後は、4生協の活動報告をもとに、グループで交流しました。

### 1. 大学生と生協活動について 千葉大学生協・東邦大学消費生協

毎年度、組合員の入れ替えが起こる大学生協での、学生組合員学生委員などの仲間づくりについてお話いただきました。



左：千葉大学生協 柴崎専務

右：東邦大学消費生協 有吉専務

### 2. 他団体との関係づくり 千葉県庁生協

「スカイレストラン黎明」のリニューアルに向けて、県関連機関や外部専門家で構成された「食堂事業運営検討会」を開催された経緯などについて、ご紹介いただきました。



左：県庁生協 丹波事務局長

右：パルシステム千葉 熊谷主任

### 3. 新たな食料支援の取り組み パルシステム千葉

フードバンクへの支援「買って応援！まごころセット」の取り組みについて、報告いただきました。



なのはな生協 涌井副理事長

### 4. 子ども食堂を中心とした地域づくり なのはな生協

子ども食堂「からべえ」を中心とした地域コミュニティへの関わり方などについてお話いただきました。

### 参加者の感想

- ・不安に感じていたデジタルへの向き合い方の、何が課題かがよくわかりました。
- ・「情知的健康」について、生協がこれまで取り組んできた食育の経験が生かせないかと思いました。
- ・アテンション・エコノミーの問題は、「学生は学校で学べるが、中高年の方々に意識を持ってもらい、どのように学習するか検討が必要」と聞き、生協でも取り組みができないかと思いました。
- ・パルシステム千葉のフードドライブについて、購入型の取り組みでポイントの活用について、報告がありましたが、自生協でも取り組んでみたいと思いました。
- ・生協との交流の場を設けていただき大変感謝します。グループ内で話し合うことで、生協が今まで地道に取り組んできた活動の価値を再認識できました。取り組む内容は様々ですが、根底にある理念は皆共通していると感じました。